

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

「アルツハイマー病先制治療薬開発を目指して」
-ASIM プロジェクト update

治療薬探索研究部

河合 昭好 部長

平成28年7月14日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

人口の高齢化に伴い、認知症患者は増加の一途を辿り、大きな社会問題となっている。中でも患者数の最も多いアルツハイマー病には根治薬が存在せず一日も早い開発が望まれている。これまで製薬会社を始め多くの研究者がその開発に多大の努力を傾けてきたにもかかわらず、未だ有用性が認められた薬剤はなく、有望視された薬剤が相次いで臨床試験で脱落しているのが現状である。

我々は $GA\beta$ (ganglioside-bound $A\beta$) が $A\beta$ の異常重合の開始点として働く病的産物であるゆえ、これを標的とする薬剤開発 (ASIM: Anti-Seed Internal Medicine) は効率性と安全性において優れた先制治療薬になりうると考え、約3年半の間 ASIM の創薬研究に取り組んで来た。バーチャルスクリーニングを活用したヒット化合物の同定とその最適化によるリード化合物の同定に関してはすでに報告済みである。現在は3つのリードシリーズの最適化を平行して進めており、早期の臨床候補品獲得を目指している。

本報告会では先制治療薬としての ASIM のコンセプトから構造活性相関を含めた現状、そして今後の方針についても触れたい。